

第3四半期決算概要

2010年3月期

株式会社シンプレクス・テクノロジー
(東証一部：4340)

www.simplex-tech.co.jp

進行

エグゼクティブサマリー

2010年3月期 第3四半期決算概要

2010年3月期 通期決算見通し

第二次中期事業計画 進捗状況


IR宣言とその実践状況

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー

2010年3月期 3Q業績


	3Q実績 (前期比)	通期計画 (前期比)	進捗率	サマリー
売上高	92.8億円 (+14.4%)	139.0億円 (+16.3%)	66.7%	インターネット取引システムがUMS系を中心に好調、ディーリングシステム/SIは横ばい（進行基準売上高：11.2億円）
営業利益	16.9億円 (+32.9%)	30.3億円 (+20.1%)	55.7%	販管費を中心としたコスト削減により大幅増（進行基準営業利益：3.0億円）
当期利益	9.6億円 (+33.6%)	18.1億円 (+52.2%)	53.0%	営業利益の伸びを受けて大幅増
受注高	103.5億円 (+7.9%)	—	—	3Qの受注高減少を受け、計画を下回る 対前期比の伸びも小さくなる
受注残高	75.1億円 (+5.9%)	—	—	過去最高を記録するも、来期売上に回る 受注残高が増える


 保守、UMS（サービス）の売上高において期初計画を下回る見通しとなることから、2010年3月期 業績予想について、売上高を145億円から139億円で下方修正（2010年1月27日発表）
詳細についてはP18「2010年3月期 売上高の見通しについて」を参照

2010年3月期 第3四半期決算概要

2010年3月期 3Q決算実績（連結）

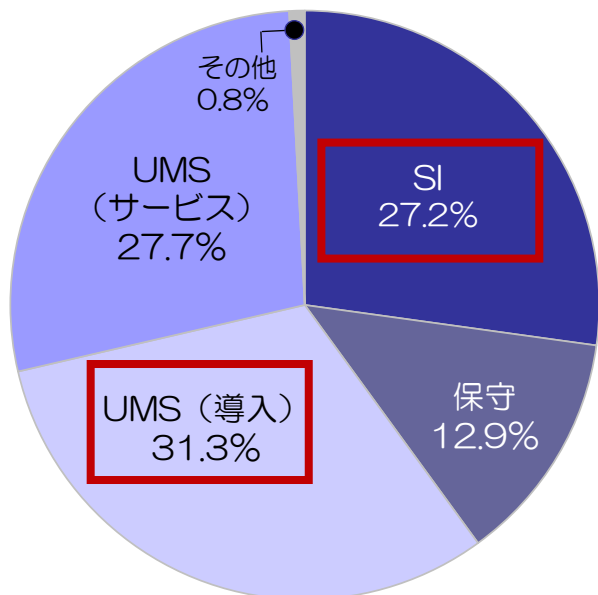
単位：百万円	2009/3期 3Q	2010/3期 3Q	前期比
売上高	8,109	9,280	+14.4%
売上総利益（率）	3,231 (39.9%)	3,853 (41.5%)	+19.2%
販管費（率）	1,959 (24.2%)	2,163 (23.3%)	+10.4%
内 研究開発費（率）	754 (9.3%)	770 (8.3%)	+ 2.2%
営業利益（率）	1,272 (15.7%)	1,690 (18.2%)	+32.9%
経常利益（率）	1,236 (15.3%)	1,673 (18.0%)	+35.3%
四半期純利益	723	966	+33.6%
従業員数：期中平均	232	304	+31.0%

 利益率の高いUMS（サービス）の売上高構成比率が高まったことで
売上総利益率 前期比+1.6ポイント

 コストコントロールの効果により、販管費率 前期比-0.9ポイント
研究開発費もほぼ横ばいとなり、利益向上に貢献

当社の事業セグメントについて

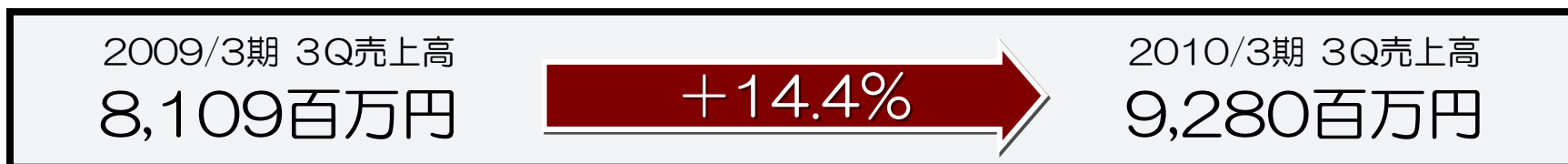
事業セグメント別
売上高構成比
(2010/3期 3Q)



□ SIとUMS (導入) は“システム開発”という点で共通しています。

事業セグメント	特徴	収益形態
SI (システム・インテグレーション)	顧客の要望に沿ってシステムを開発・納入する受託開発が中心	フロー型
保守	SIで納入したシステムの運用・保守作業	ストック型
UMS (導入)	UMS (サービス) の導入・機能追加の開発費用を顧客が負担する場合に発生。当社負担分は研究開発費へ	フロー型
UMS (サービス)	当社が開発・運用・所有するシステムを顧客にサービス提供	成功報酬型 ストック型
その他	大半がハードウェアなど物品販売によるもの	フロー型

売上高の増減要因：事業セグメント別



単位：百万円	2009/3期 3Q 売上高（構成比）	2010/3期 3Q 売上高（構成比）	前期比
SI	2,885 (35.6%)	2,524 (27.2%)	− 12.5%
保守	1,205 (14.9%)	1,199 (12.9%)	− 0.4%
UMS（導入）	1,244 (15.3%)	2,908 (31.3%)	+133.7%
UMS（サービス）	1,669 (20.6%)	2,574 (27.7%)	+ 54.2%
その他（物販など）	1,105 (13.6%)	73 (0.8%)	− 93.3%

SIは大型案件が少なく、リピート中心の展開。保守の減額交渉の影響も響く

当上期より大証FXがスタート。SPRINTの新規導入案件が目立ち、UMS系が大きく躍進

物販売上について手数料部分のみを計上するネットィング処理を実施

※SPRINT（スプリント）とは、当社が金融機関向けに展開する個人投資家向けインターネット取引サービスの名称です。

売上総利益の増減要因：事業セグメント別

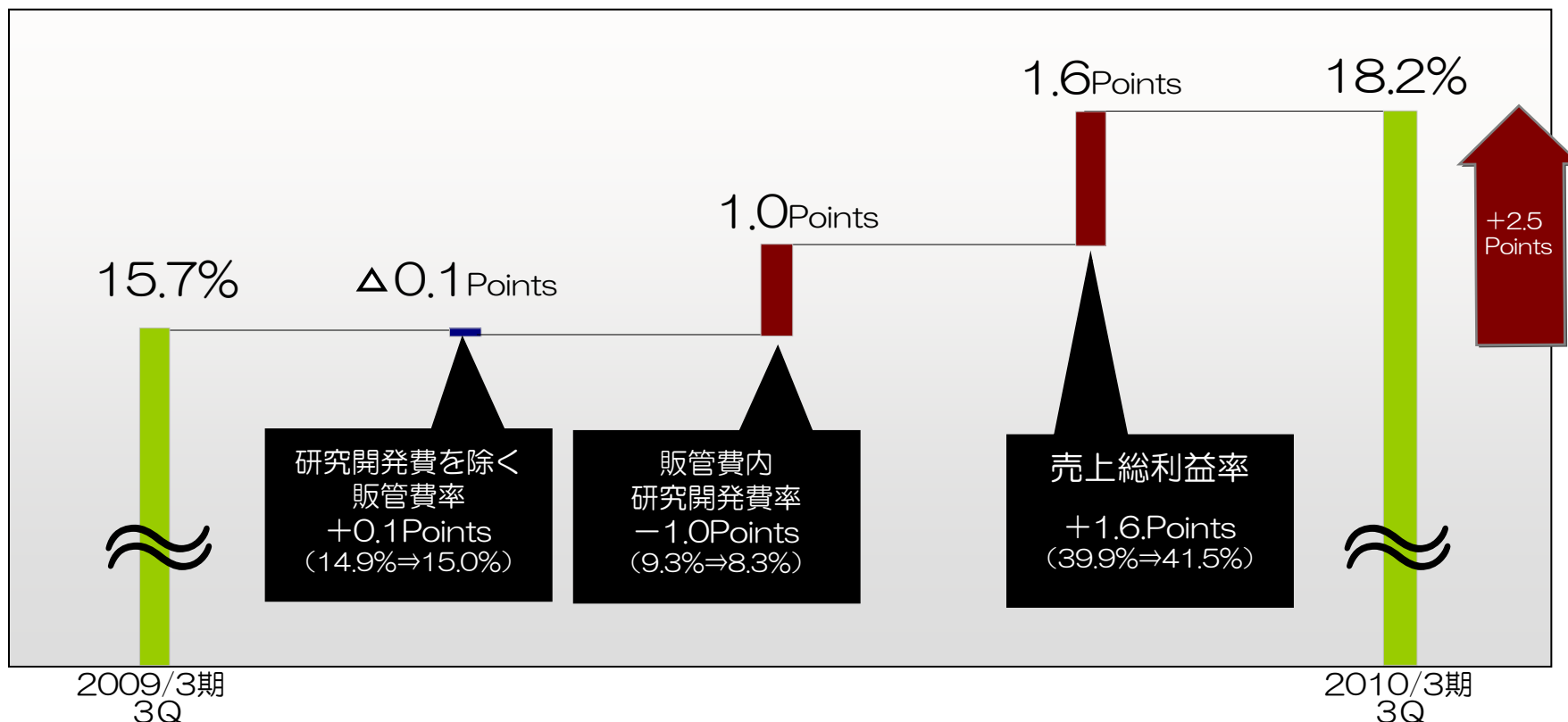
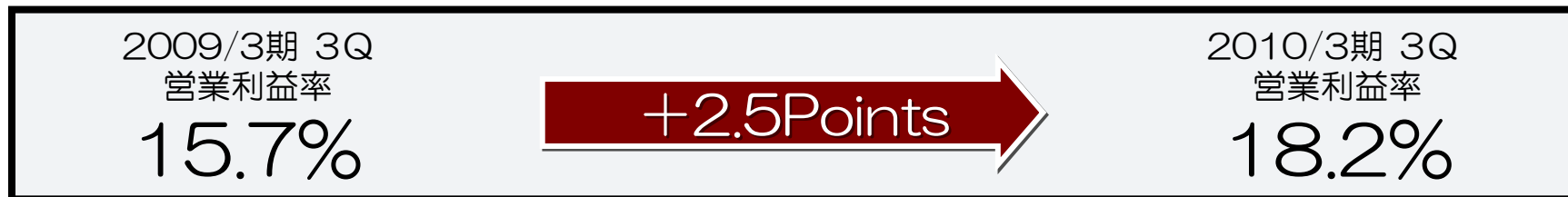


単位：百万円	2009/3期 3Q 売上総利益 (利益率)	2010/3期 3Q 売上総利益 (利益率)	利益率前期比
SI	1,024 (35.5%)	888 (35.2%)	− 0.3Points
保守	647 (53.7%)	583 (48.6%)	− 5.1Points
UMS (導入)	537 (43.2%)	1,003 (34.5%)	− 8.7Points
UMS (サービス)	832 (49.9%)	1,305 (50.7%)	+ 0.8Points
その他 (物販など)	190 (17.2%)	73 (100.0%)	+82.8Points

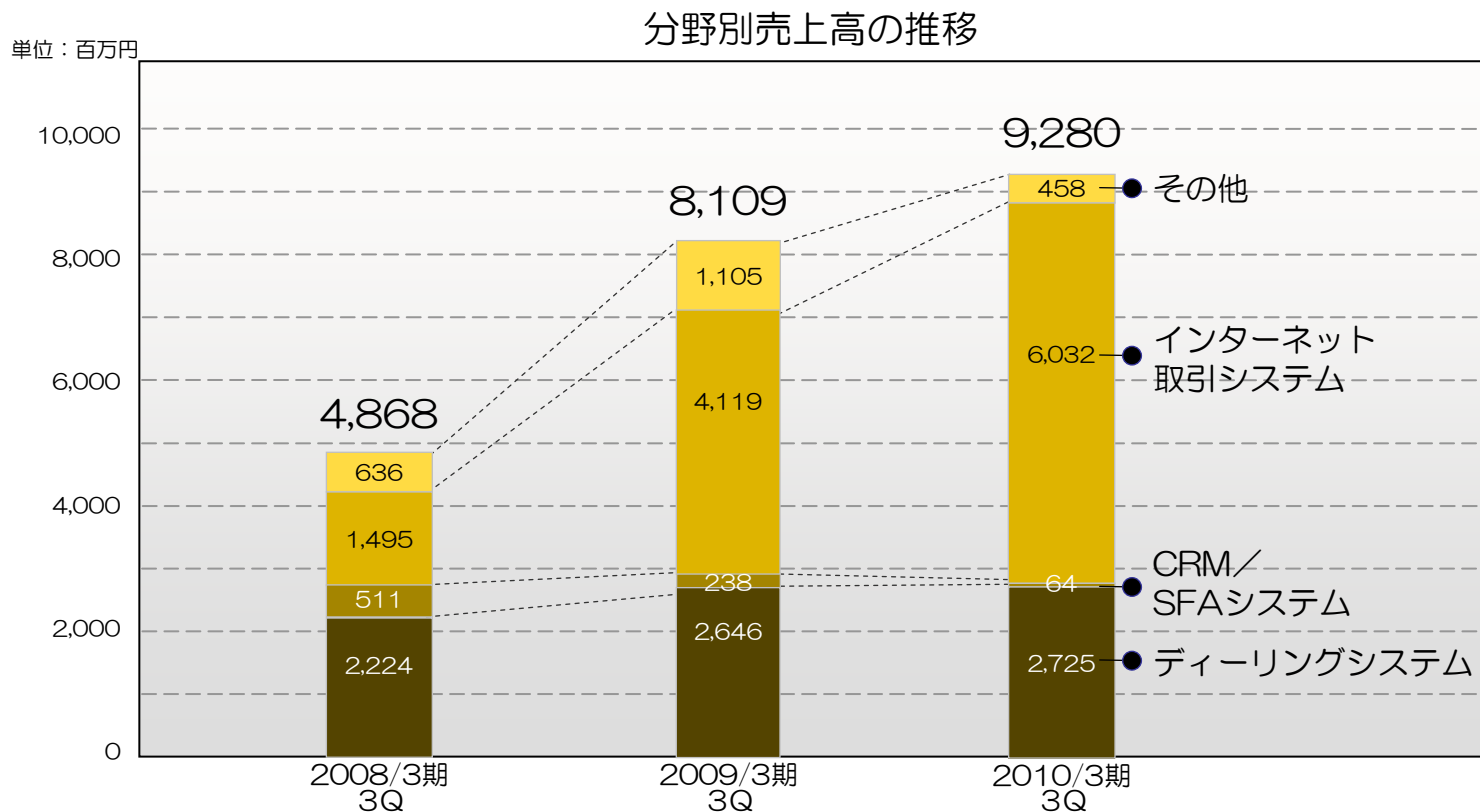
1Qに発生した特定の不採算案件の影響により、SIの利益率が低下
 当該案件のリリース後も保守の負荷が高く、保守の利益率が低下
 大証FX関連の5月→7月延期によるコスト負担増により、計画通りUMS (導入) の利益率が低下

SPRINT導入顧客の増加により、UMS (サービス) の利益率が伸びる
 利益率の高いUMS (サービス) の構成比が高まったことが、全体の利益率の下支えに

営業利益率の増減要因



分野別傾向分析①：売上高の推移



ディーリングシステム：従来の主力事業であったがここ数年低調

インターネット取引システム：ここ数年の成長ドライバー

※CRM案件は、当期より当社の持分法適用関連会社のバーチャレクス・コンサルティングに完全委託しています。

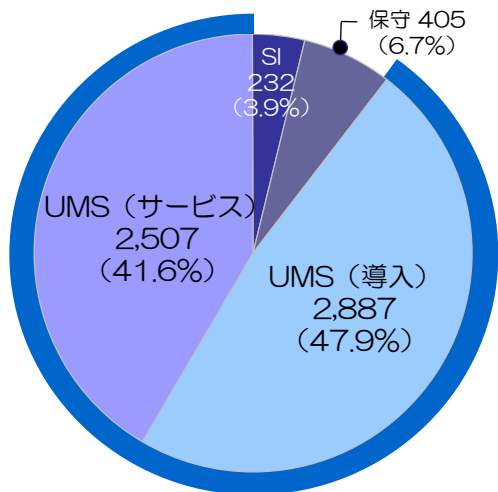
※その他は、大半がハードウェアなどの物品販売によるものです。 11

分野別傾向分析②：インターネット取引システム

インターネット取引システム
2010/3期 3Q売上高
6,032百万円
(前期比：+46.5%)

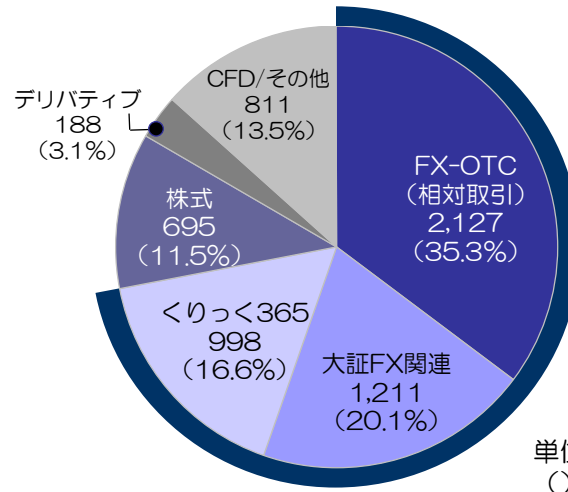
躍進するUMS系が当社の成長ドライバー

事業セグメント別構成比
(2010/3期 3Q)



UMS事業

ソリューション別構成比
(2010/3期 3Q)



FX系

単位：百万円
() 内は売上高構成比

■ UMS系の売上が大半を占める

- FXが圧倒的な成長ドライバー、新規案件においてはOTCから取引所FXに移行
- 新規にCFD向けサービスをスタート
- 既存の株式のテコ入れも実施予定

※1 大証FXとは、大阪証券取引所が2009年7月に創設した取引所FXの愛称です。

※2 <くりっく365とは、東京金融取引所に上場している取引所FXの愛称です。

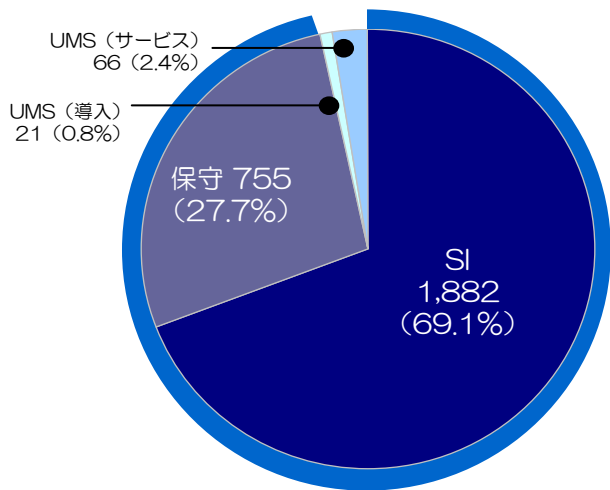
※3 CFDとはContract for differenceの略称で、様々な金融商品の差額売買を証拠金によって行う差金決済取引を指します。

分野別傾向分析③：ディーリングシステム

ディーリングシステム
2010/3期 3Q売上高
2,725百万円
(前期比：+3.0%)

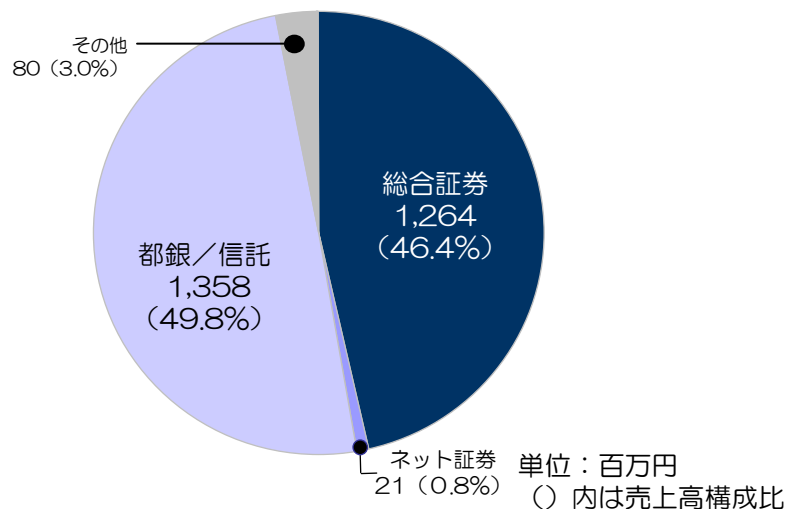
SI/保守が中心の従来からの主力事業

事業セグメント別構成比
(2010/3期 3Q)



SI事業

顧客セグメント別構成比
(2010/3期 3Q)



SI/保守が大半を占める

■ 従来の準大手証券中心から都銀/三大証券に移行

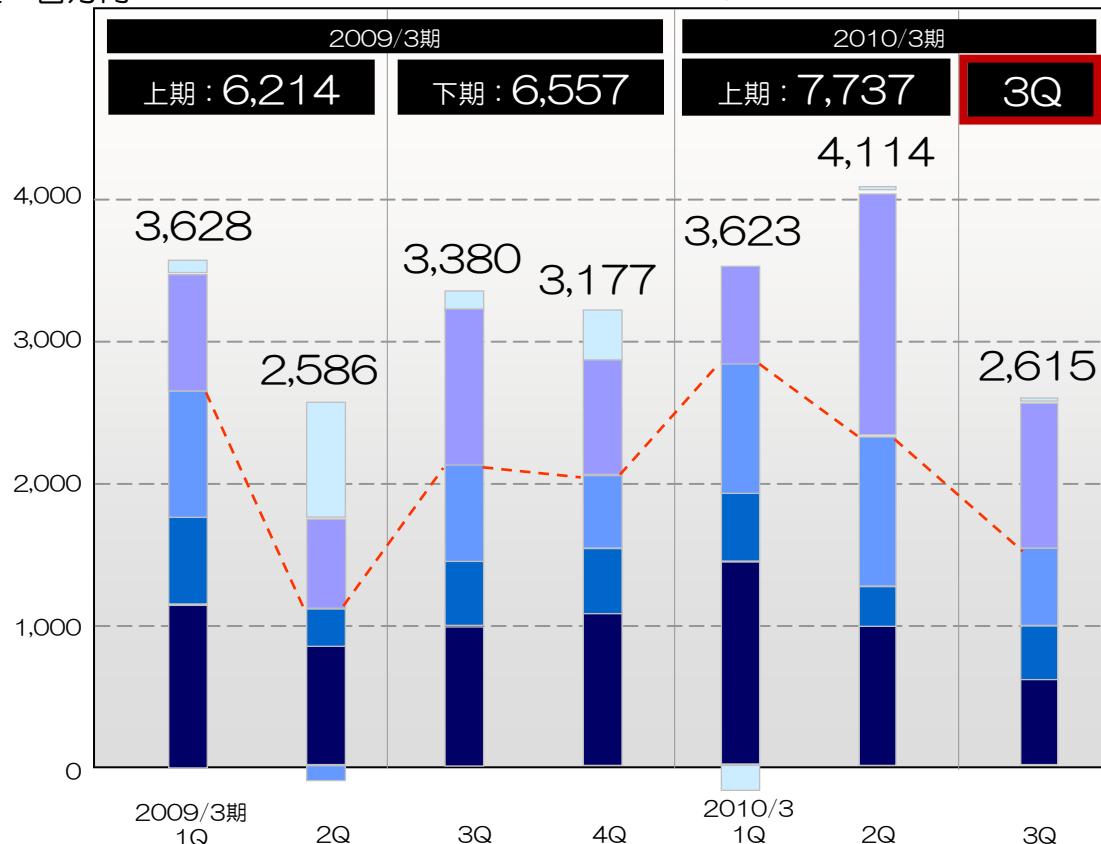
分野別傾向分析④：総括

	分野別	
	ディーリングシステム	インターネット取引システム
事業セグメント	SI/保守が中心	UMS系が中心
顧客	都銀/総合証券が半々	総合証券/ネット証券 ネット銀行/FX専門業者 取引所など多岐に渡る
現状	ここ数年横ばい	急成長中
成長ドライバー	都銀/三大証券向け大型SI案件	FX
トピック	従来の準大手証券中心から 都銀/三大証券へ大きく移行	FXはOTCから取引所取引 (大証FX/くりっく365)へ移行 CFD向けサービスを開始

受注高の推移：事業セグメント別

単位：百万円

受注高の推移



	2009/3期 1Q	2Q	3Q	4Q	2010/3 1Q	2Q	3Q
■ その他	91	855	149	357	-191	28	28
■ UMS (サービス)	835	665	1,103	796	747	1,768	1,014
■ UMS (導入)	903	-110	693	504	1,008	1,045	552
■ 保守	629	286	454	450	527	286	392
■ SI	1,167	888	980	1,069	1,532	985	627

2010年3月期 3Q受注高

4月～12月：103.5億円
累計 (前期比：+7.9%)

10月～12月：26.1億円
累計 (前Q比：-36.4%)

3Q受注高の減少要因と受注環境

- 2Qでの引き合いが大きく低迷したため、3Qの受注高が減少
- 3Q以降、大型SI案件の引き合いが増加。提案から受注までの期間が長いため、3Qの受注高として計上できない傾向にあった

※当期より、「その他」については物販売上の手数料部分のみを計上するネットینگ処理を実施しているため、2010年3月期1Q「その他」の受注高がマイナスとなっています。

2010年3月期 通期決算見通し

2010年3月期 通期決算見通し（連結）

単位：百万円	2009/3期 実績	2010/3期 期初計画	2010/3期 修正後計画	前期比
売上高	11,942	14,500	13,900	+16.3%
売上総利益（率）	4,959 (41.5%)	6,387 (44.0%)	5,977 (43.0%)	+20.5%
販管費（率）	2,436 (20.4%)	3,357 (23.1%)	2,947 (21.2%)	+20.9%
内 研究開発費（率）	942 (7.8%)	1,200 (8.2%)	1,000 (7.1%)	+ 6.1%
営業利益（率）	2,522 (21.1%)	3,030 (20.8%)	3,030 (21.8%)	+20.1%
経常利益（率）	2,484 (20.8%)	3,000 (20.6%)	3,000 (21.1%)	+20.8%
当期純利益	1,189	1,810	1,810	+52.2%
従業員数：期中平均	234	312	312	+33.3%

売上高：期初見通しを6億円下回る見込み

営業利益、経常利益、当期純利益：期初見通しを据え置き

2010年3月期 売上高の見通しについて

		期初売上高見通し (前期比)	修正後売上高見通し (前期比)	対期初計画比 (増減率)
SI		約55億円 (+12%)	42.5億円 (-13.6%)	-12.5億円 (-22.7%)
保守		約20億円 (+25%)	15.9億円 (-2.6%)	-4.1億円 (-20.5%)
UMS	導入	約29億円 (+81%)	42.7億円 (+156.1%)	+13.7億円 (+47.2%)
	サービス	約40億円 (+73%)	36.8億円 (+54.0%)	-3.2億円 (-8.0%)
その他 (物販)		約1億円 (-92%)	1.1億円 (-91.7%)	+0.1億円 (+10.0%)
売上高 合計		145億円 (+21.4%)	139億円 (+16.3%)	-6.0億円 (-4.1%)

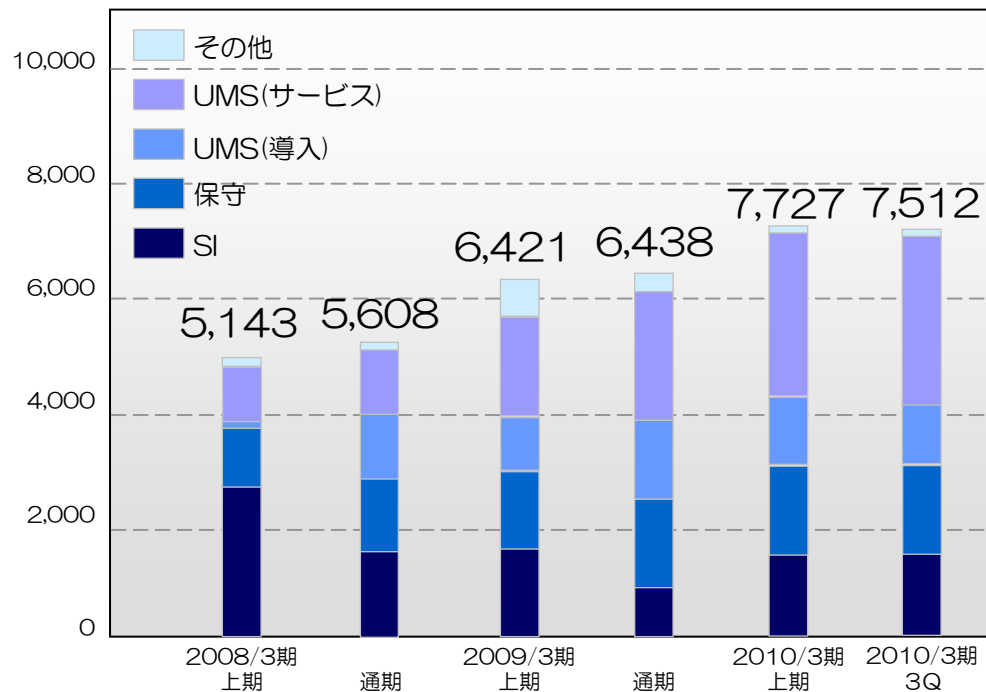
売上総利益率	44.0%	43.0%	-1.0ポイント
--------	-------	-------	----------

好調なUMS（導入）に売上高が偏重するものの、システム開発系のSI、UMS（導入）の合計売上高は計画値：84億円を上回る約85億円の着地となる見込み

保守は、減額交渉の影響や、保守を自社で担う銀行案件のSI案件が増えたことで、計画値を下回る見込み
UMS（サービス）は、月間売上高が3.5億円となり、努力目標：4億円に未達。計画値を下回る見込み

受注残高の推移

単位：百万円



2010/3期
3Q受注残高：75.1億円 (注1)
 (前期比：+5.9%)
(うち今期計上分：25.0億円) (注2)

(注1) 上期受注残高には、変動部分であるUMS (サービス) のインセンティブ売上高は含まず、基本料金売上のみを計上しています。

(注2) 今期計上分の受注残高には、来期完了予定プロジェクトの進行基準による今期売上高は含んでいません。

その他	229	175	628	300	90	92
UMS(サービス)	974	1,233	1,797	2,244	3,181	3,200
UMS(導入)	167	1,094	749	1,419	1,358	1,117
保守	1,210	1,391	1,524	1,578	1,591	1,586
SI	2,561	1,713	1,721	895	1,504	1,516

2010年3月期 売上高の進捗について

		2010/3期 3Q
A	通期売上高見通し（修正後）	139億円
B	受注済案件 今期計上予定分	約128億円
	3Q売上高	(92億円)
	今期計上予定受注残高	(25億円)
	進行基準に関する売上高 ※	(約9億円)
	UMS（サービス）インセンティブ売上高 ※	(約2億円)
C	受注には至っていない案件ではあるが 高い確度で今期計上が見込める売上高	約11億円



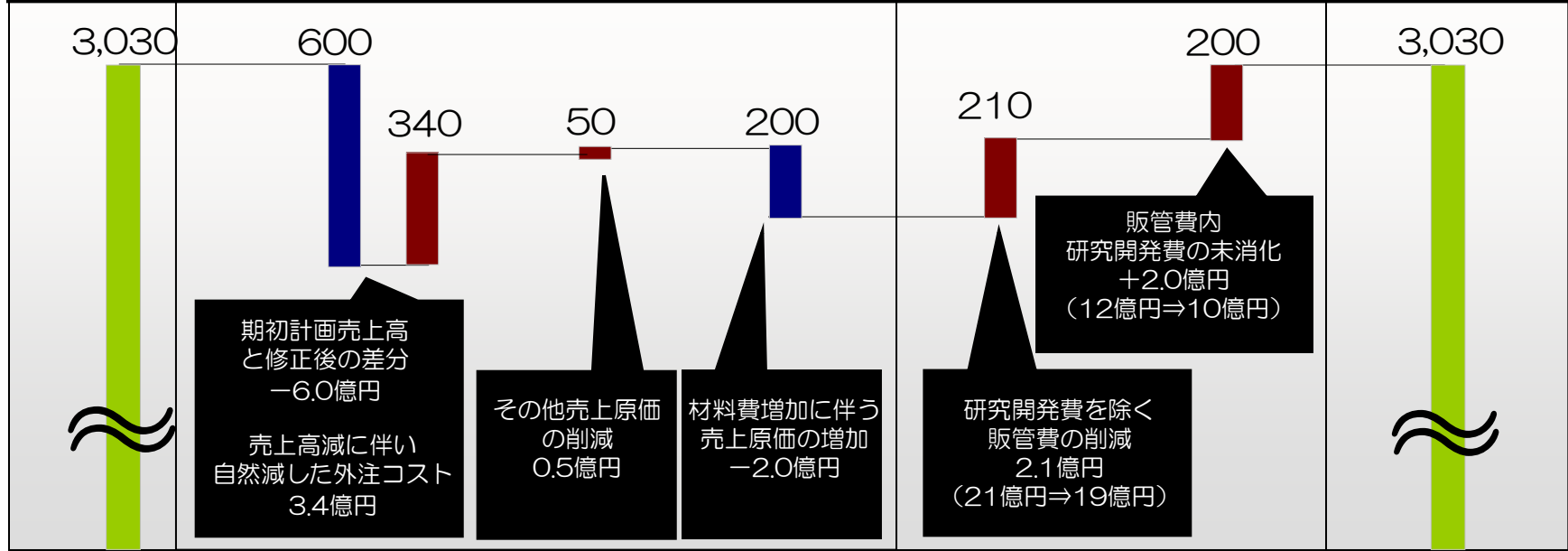
修正後の売上高見通しは前期比+16.3%の増収となる

※ 「進行基準に関する売上高」および「UMS（サービス）インセンティブ売上高」につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。実際の業績はこれらの見通しと異なる結果となる可能性があります。
 なお、4Qに新規受注し検収まで終えた案件の前期売上高実績は8億円（UMS（サービス）インセンティブ含む）でした。

2010年3月期 営業利益の見通しについて

営業利益 | 研究開発費の未消化やコストコントロールの徹底により
営業利益は期初計画通りの着地となる見込み

2010/3期 期初計画 営業利益 **3,030百万円**
(営業利益率：20.9%)  2010/3期 修正後 営業利益 **3,030百万円**
(営業利益率：21.8%)



期初計画
営業利益

＜営業利益増減要因＞
売上総利益の減少：-4.1億円

＜営業利益増減要因＞
販管費の減少：+4.1億円

修正後
営業利益

3Q以降の営業環境について

大手金融機関向けディーリングシステムを中心にSIが盛り返す動き



リピートオーダーは2Qの低迷から3Q中頃に正常化に向かいつつある



5~10億円超の大型SI案件の引き合いが3Q後半から急増

背景

- 既存システムのリプレイス時期の到来
- 金融再編も契機となる
- 大証FXに代表される大型プロジェクトの成功で、数十億規模のプロジェクトを任せられるベンダーであるとの認知を得る

顧客

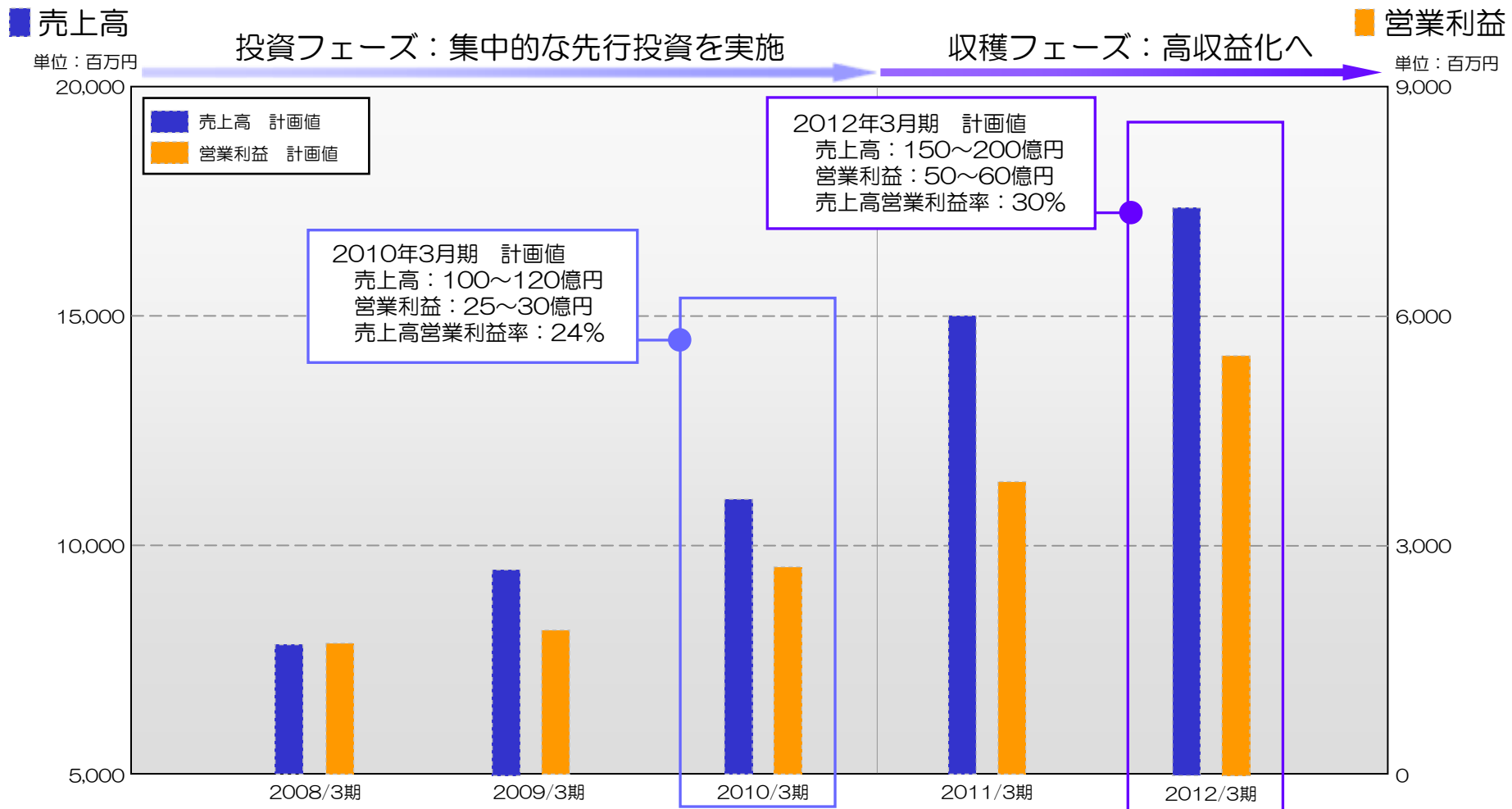
- メガバンク／三大証券／取引所

対象システム

- 株式ディーリングシステム
- 債券ディーリングシステム
- デリバティブディーリングシステム
- 取引所／PTSシステム

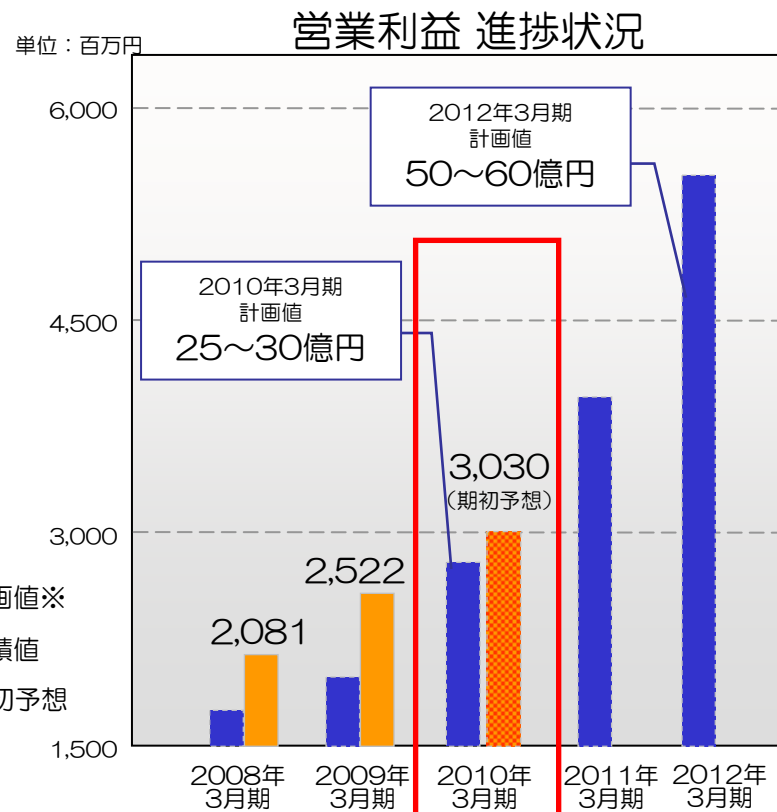
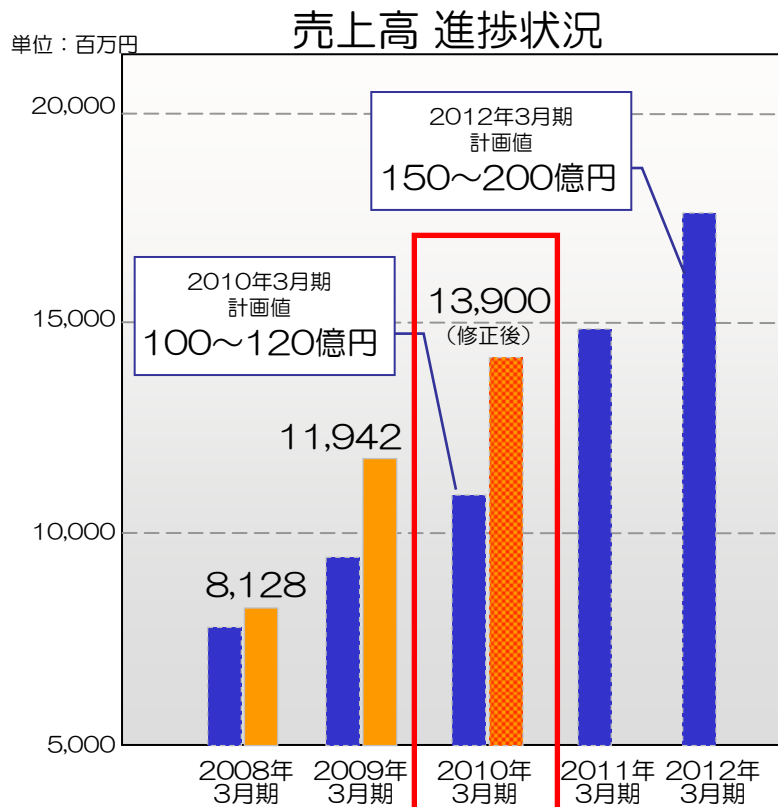
第二次中期事業計画 進捗状況

第二次中期事業計画 計画値 (2006年11月策定)



※UMS事業向け先行投資として、5年間で50億円程度の投資を実施予定です。投資コストは各会計年度で費用化することを前提としています。
 ※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。

第二次中期事業計画 進捗状況



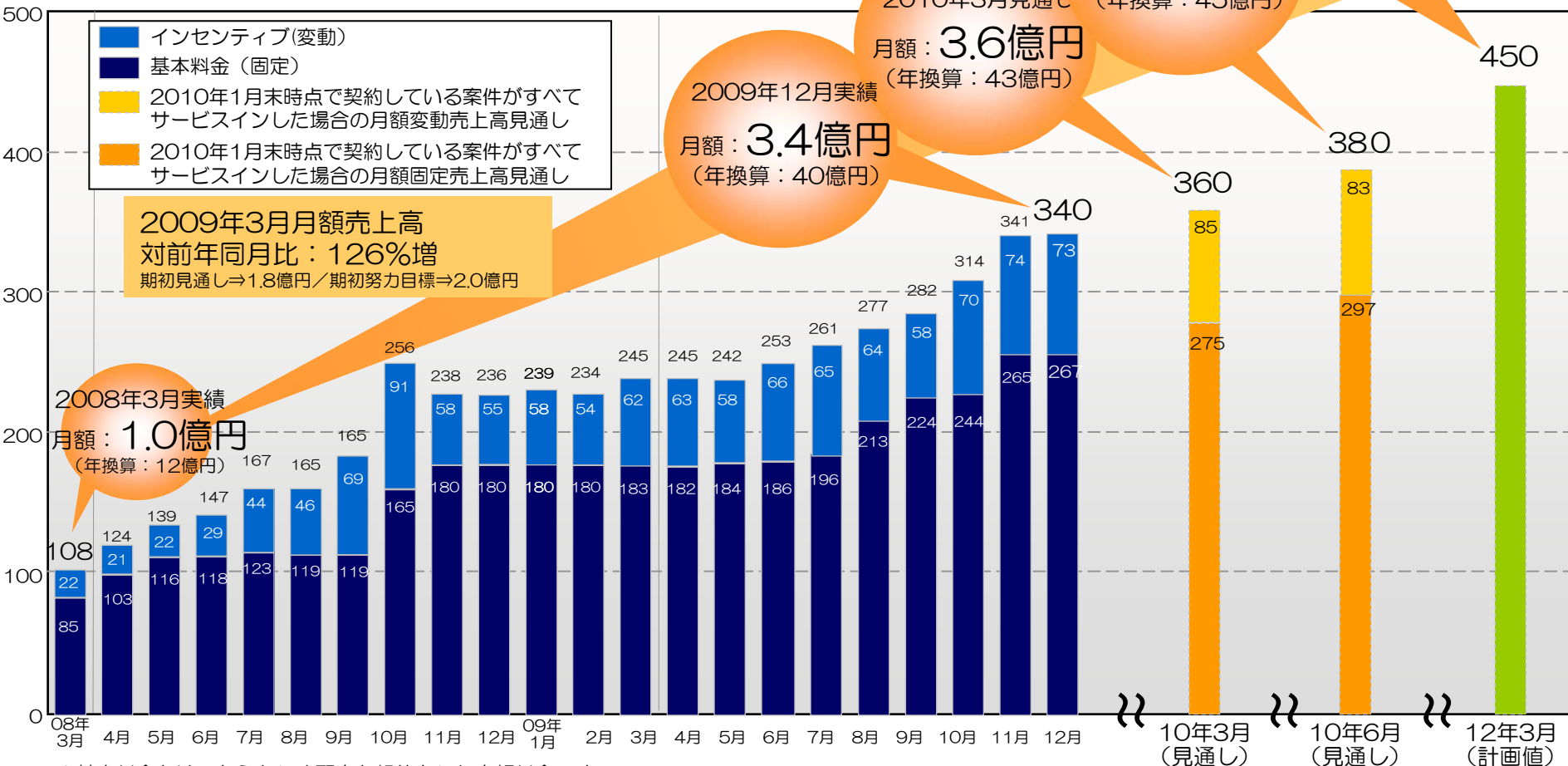
↑ 売上高は1年前倒しのペースで進捗中

↑ 利益は計画上限値をわずかに超える予定

※計画値は、2006年11月に策定した第二次中期事業計画の計画値です。
 ※2010年3月期、2012年3月期のグラフはすべて中間値で表示しています。
 ※2010年3月期、2009年3月期の売上高・営業利益の計画値は、上限値を目標、下限値を株主の皆様に対する公約・責務（コミットメント）としています。

成長ドライバーとなるストック型ビジネス UMS(サービス) 月額売上高の推移

単位：百万円



※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。

※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。

※2010年3月及び6月時点の見通しは、2010年1月時点の契約済案件から計上しています。変動部分の見通しは、保守的に見積もった当社予測によるものです。

※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

IR宣言とその実践状況

シンプレクス・テクノロジーは、2009年11月2日に
上場会社初のIR宣言を発表しました

IR宣言

シンプレクス・テクノロジーIR宣言

2009年11月2日発表

- 1 IR活動を経営の最重要項目のひとつとして位置づけます。
- 2 東証一部上場のパブリック企業として説明責任を果たし、常に明瞭な企業メッセージを発信いたします。
- 3 業績動向や事業環境に関わらず、一貫して公正で信頼性の高い情報を開示いたします。
- 4 企業認知度の向上を目指すとともに、すべての利害関係者に対して公平かつタイムリーな情報開示に努めます。
- 5 株主・投資家とのコミットメントを遵守し、ゆるぎない信頼の構築に努めます。

IR活動指針とその実践にあたって

IRの基盤整備	IRの更なる充実
---------	----------

2009年度下期～2010年3月期 施策	2011年3月期 以降
----------------------	-------------

IR宣言/IR活動指針の策定

IR活動指針の実践項目

IR活動指針	積極的なIR	<ul style="list-style-type: none"> IRイベント目標開催回数の提示 すべての個別取材にCEO又はCFOが対応 IR資料と質疑応答の内容の公開 他
	わかりやすいIR	<ul style="list-style-type: none"> IR資料の改革 ウェブサイトのリニューアル 定性情報の積極的な開示 他
	開かれたIR	<ul style="list-style-type: none"> 株主・投資家の声を経営へフィードバック 株主総会の土日開催 IR活動報告の実施 他
	株主満足度を高めるIR	<ul style="list-style-type: none"> 中期事業計画の明確な業績目標の提示 第二次中期事業計画の最終年度の売上高営業利益の下限値を株主へのコミットとする

株主・投資家の皆さまと長期的な信頼関係を構築し、企業価値の最大化をはかる

さらなる施策の深掘りを実施し、継続的な発展を目指す

詳細は11月2日発表のプレスリリースをご覧ください
<http://www.simplex-tech.co.jp/pdf/ir/press-release20091102.pdf>

IR活動のご紹介

IR体制

- トップ直轄の体制
- 社長（金子英樹）－ 執行役員（澤田正憲）－ IR担当（平田由紀子）

10年3月期の主要IR活動

- 個人投資家向け会社説明会（今期開催回数：5回／動員人数：1,024人）
- アナリスト・機関投資家向け決算説明会（今期開催回数：2Q・3Q・4Qの計3回実施予定）
- アナリスト・機関投資家向け個別取材（2Qまでの件数：100件）
- カバーアナリストの増加（前期：2名⇒今期：6名）

現在の主要取組事項

- ホームページのリニューアル作業に着手（2010年夏頃にリニューアル予定）

參考資料

シンプレクス・テクノロジーとは

参入障壁の高い金融フロンティア領域に特化したITベンチャー企業

1. ソロモン・ブラザーズの最先端技術を誇るシステムチームのメンバーで97年に創業
2. 高度な金融ノウハウ・技術力の提供で業界において断トツの収益力

売上高営業利益率の比較（2009年3月期）

業界平均	NTTデータ	シンプレクス・テクノロジー
6.8%	8.7%	21.2%

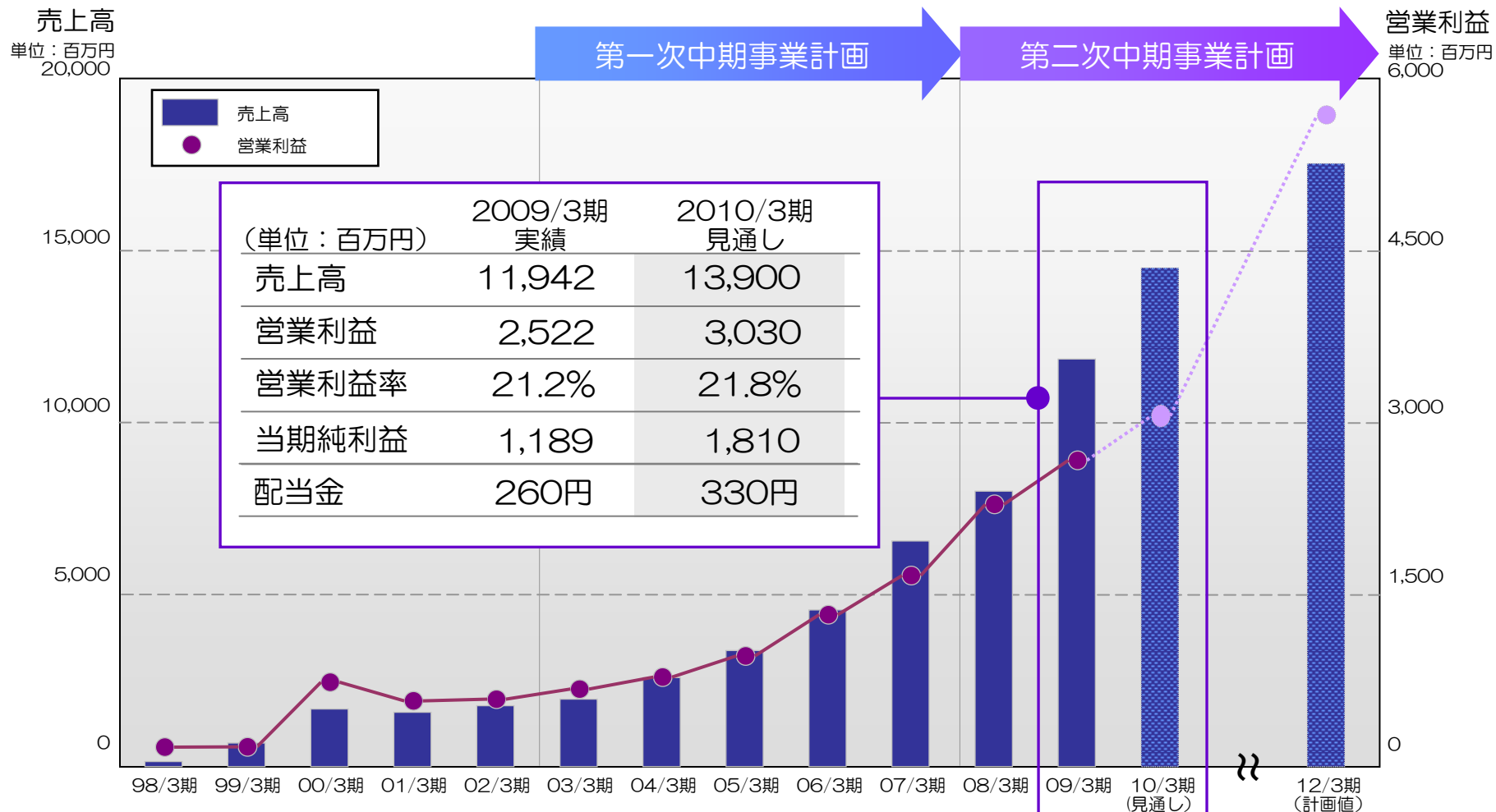
出典：「2008年版情報サービス産業基本統計調査」ならびに21年3月期決算短信等から当社作成

3. 債券ディーリングシステムは、大手証券10社中9社が採用
FXシステムは、大証FX業者9社中8社、くりっく365業者16社中7社が採用※
4. 好不況に左右されず、8期連続の増収・増益を更新し、9期連続にトライ中
5. さらなる躍進を目指し、2012年3月期を最終年度とする第二次中期事業計画を推進中
6. 上場企業初の「IR宣言」を実施、パブリック企業としての説明責任をコミットメント

※大証FXとは、大阪証券取引所の取引所FXの愛称です。当社は大証FXの取引所システム開発も受注し、サービス提供しています。
くりっく365とは、東京金融取引所の取引所FXの愛称です。

創業時からの売上高・営業利益の推移

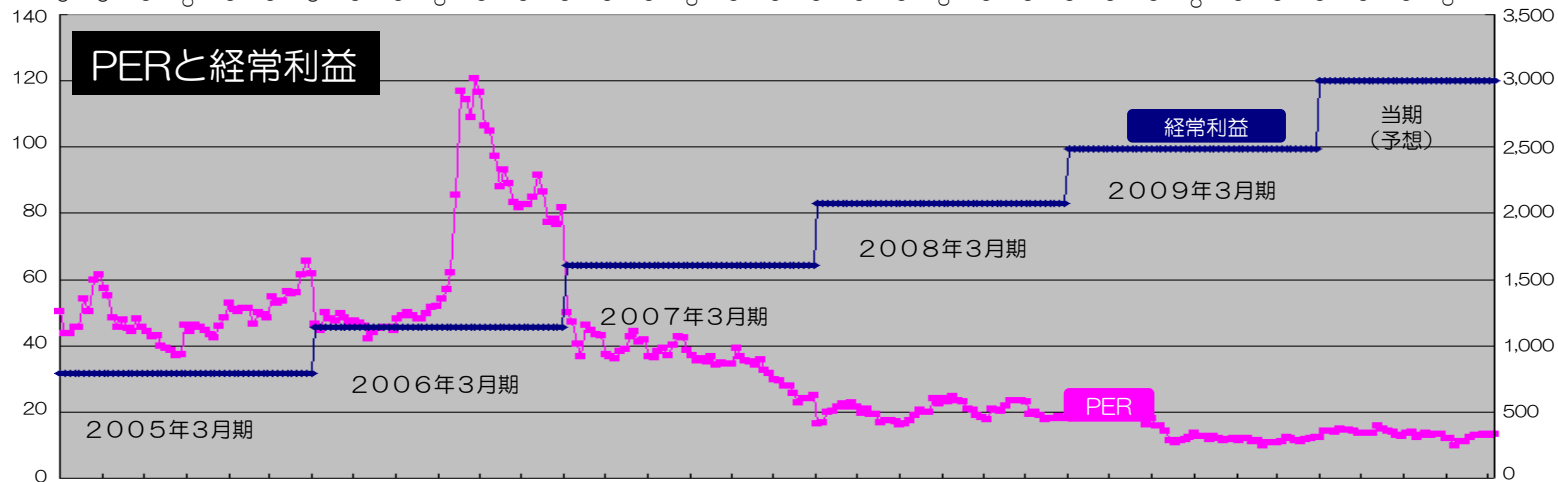
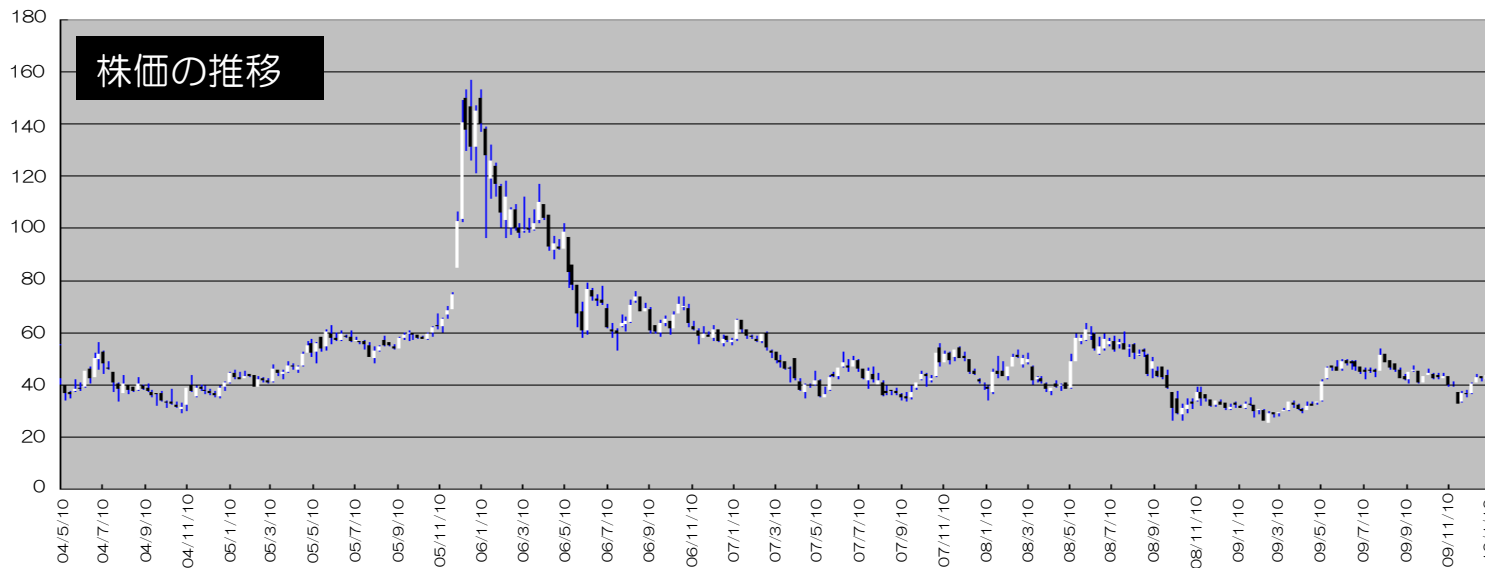
8期連続の増収・増益を更新し、9期連続にトライ中



※ 2012年3月期見通しは、業績目標（売上高150~200億円、経常利益50~60億円）の中間値で表示しています
 ※ 2010年3月期 業績予想について、売上高を145億円から139億円に下方修正（2010年1月27日発表）しています。

営業利益とPERの推移表 (2005年3月期~2010年3月期)

(単位：千円)

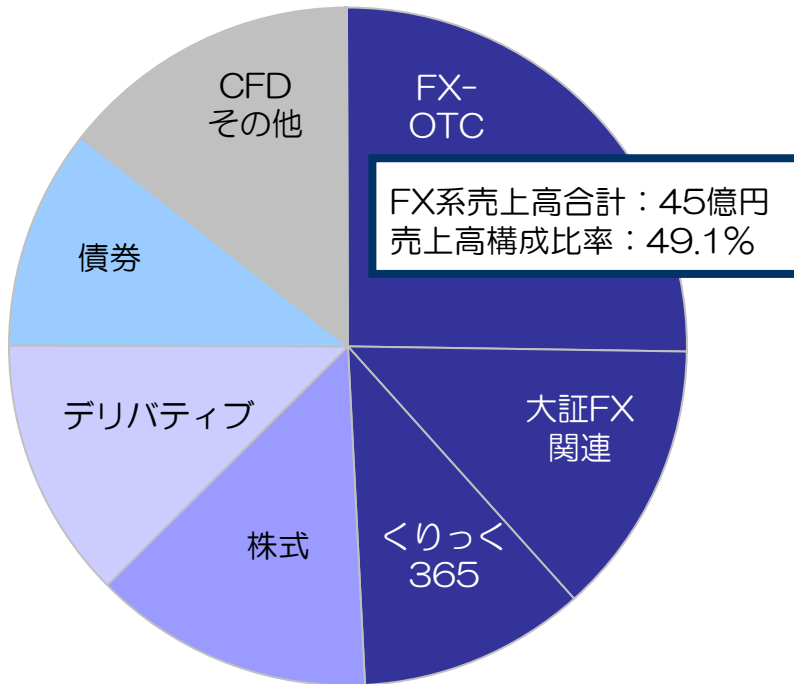


(単位：倍) ※左軸がPER、右軸が経常利益となります。

(単位：百万円)

2010年3月期3Q ソリューション別売上高構成比

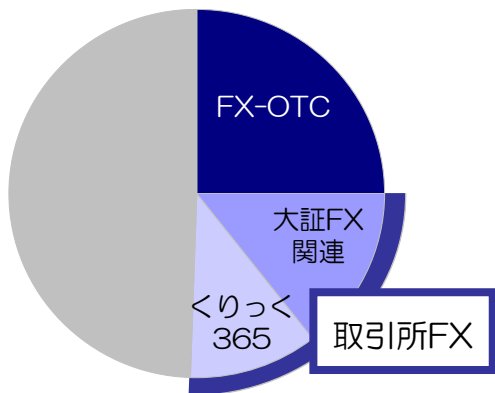
ソリューション別
売上高構成比率
(2010/3期 3Q)



		売上高	構成比
FX	OTC	2,345百万円	25.3%
	大証FX	1,211百万円	13.1%
	くりっく365	998百万円	10.8%
株式		1,247百万円	13.4%
デリバティブ		1,160百万円	12.5%
債券		972百万円	10.5%
CFD/その他		1,344百万円	14.5%
売上高合計		9,280百万円	100%

FXを巡る市場環境に対するリスク分析

2010年3月期3Q売上高におけるFX系売上高構成比



2010年3月期
3Q売上高に占めるFXの割合 : 49.1%

取引所FX向けシステムにおいて圧倒的シェアを確立

- くりっく365取扱業者向け：16社中7社が当社システム
- 大証FX取扱業者向け：9社中8社が当社システム

（2010年1月末現在／導入中含む）

金融庁の改正内閣府令が求める内容	改正内閣府令に対する当社の状況と影響
レバレッジ（証拠金）規制の導入	2010年8月頃からレバレッジ50倍まで 2011年8月頃からレバレッジ25倍までに規制される ⇒当社の見解については次ページで説明
区分管理方法の 金銭信託一本化	OTC、取引所FXともに、当社顧客は顧客預り証拠金の完全信託を 導入済みのため、当社への影響はなし
ロスカットルール整備と 遵守の義務付け	システム対応が求められ、当社システムの優位性が訴求できるため、 当社にとっては追い風となる可能性あり

レバレッジ規制に対する当社の見解

当社顧客特性と規制による当社への影響について

レバレッジレベル		2010/3期上期UMS系売上高 合計			規制による 当社への影響
		UMS (導入)	UMS (サービス)		
高レベル	200倍以上	—	—	—	影響なし
中レベル	50~100倍前後	1.3億円	5.7億円	7.1億円	一定の影響あり
低レベル	25倍前後	5.0億円	2.4億円	7.5億円	影響なし

- レバレッジ規制の大きな影響を受けるハイレバレッジ業者が顧客にいない
- 中レバレッジOTC業者は一定の打撃を受けると想定
 1. マーケットから投資家が流出するリスク、またレバレッジ自体が低くなることで取引量自体が減るリスク
 2. レバレッジの優位性がなくなるため、税制優遇を求めてFX-OTCから当社が圧倒的なシェアを持つ取引所へ投資家が流れる可能性がある
- OTC大手業者を中心に取引所取引（大証FX/くりっく365）の引き合いが多くあり
当下期にも新規顧客がみこまれる

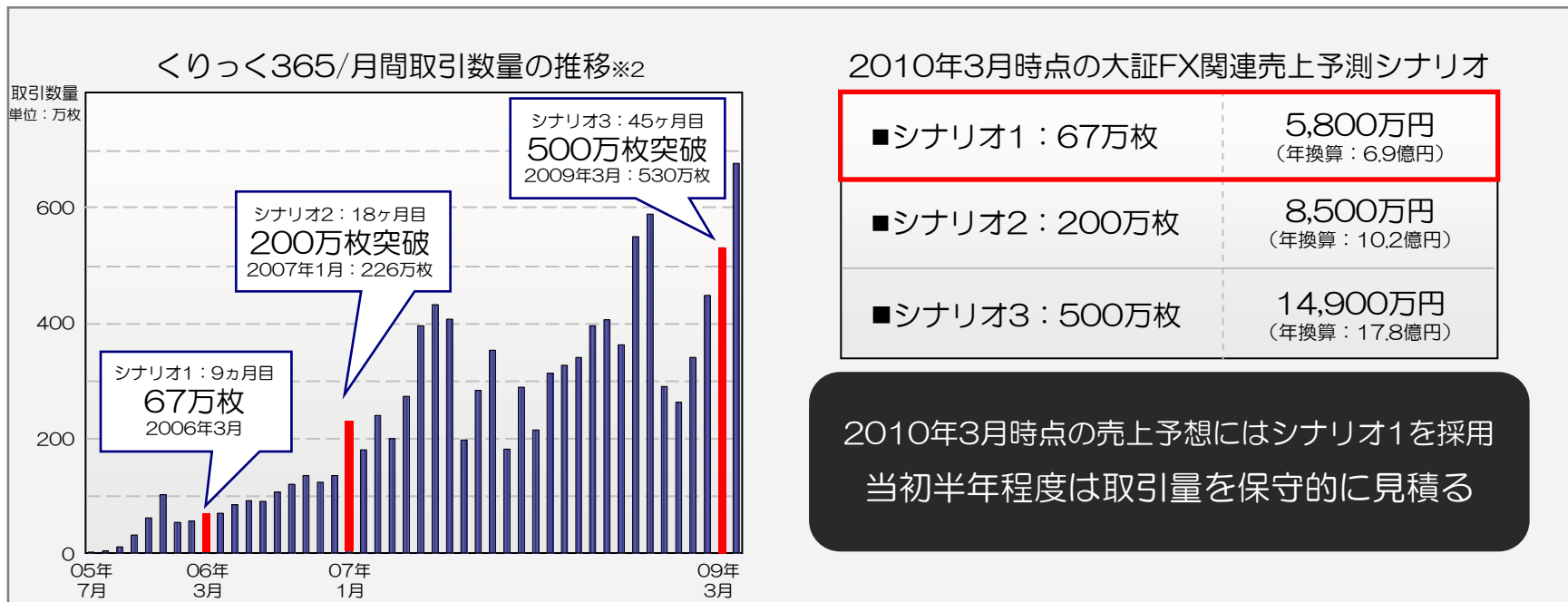
総括

以上の理由により、一定の影響は受けるものの限定的なものと判断

2010年3月時点 大証FX関連サービス売上予測について

予測にあたっての前提

- 取引所向けサービス・FX事業者向けサービスの双方から売上を計上予定
- FX事業者向けサービスからの売上予想については、当社サービスを利用した取引が大証FX取引全体の65%を占めると仮定 ※1
- 売上計上の際、係数となる取引数量には取引所FX取引「くりっく365」の取引実績を参考に当社算出



※1 占有率は、2009年5月時点で当社がサービス提供を予定していた合計8社のFX事業者の事業規模から算出しています。

※2 東京金融取引所の「くりっく365 全通貨取引数量/建玉推移」 <http://www.click365.jp/statistics/data/monthlyfx.xls>から当社が作成したものです。

UMS事業 「SPRINT」 導入実績

■ 「SPRINT」とは；

多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引サービス

2010年1月28日現在

	対応商品						
	株式 (現物・信用)	先物・ オプション	FX			債券	CFD
			OTC※1	くりっく365※2 16社中7社が採用	大証FX※3 9社中8社が採用		
 SPRINT Pro スプリント・プロ リッチクライアント PC版	オリックス証券 野村證券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 野村證券 松井証券 先物系証券会社1社	インヴァスト証券 ソニー銀行 マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ 証券	インヴァスト証券	岩井証券 インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 そしあす証券 ひまわり証券 豊証券 松井証券(導入中) この他、数社から内定	△	△
 SPRINT Mobile スプリント・モバイル リッチクライアント 携帯電話版※4	オリックス証券 野村證券 松井証券 先物系証券会社1社	オリックス証券 松井証券 先物系証券会社1社	インヴァスト証券 野村證券 ソニー銀行 マネックスFX マネーパートナーズ 三菱商事フューチャーズ 証券	豊商事	△	△	△
 SPRINT Basic スプリント・ベーシック ウェブブラウザ版	△	野村證券	インヴァスト証券 スター為替証券 ソニー銀行 三菱商事フューチャーズ 証券 大手ネット專業証券1社 ネット專業証券2社	インヴァスト証券 スター為替証券 住信SBIネット銀行 大和証券 豊商事 ユニマット証券	岩井証券 インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 そしあす証券 ひまわり証券 豊証券 松井証券(導入中) この他、数社から内定	オリックス証券	大和証券

※1 ウェブブラウザ専用のOTC対応版は、SI事業として大和証券、ひまわり証券、マネーパートナーズに納入しております。

△...今後対応予定の商品・チャネル

※2 ウェブブラウザ専用のくりっく365対応版は、SI事業としてコスモ証券に納入しております。

※3 大証FX対応版は、2009年7月21日よりサービスを開始しております。

なお、マーケットメイカー向け取引ゲートウェイシステムをマネーパートナーズに提供しています。

※4 リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。